

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

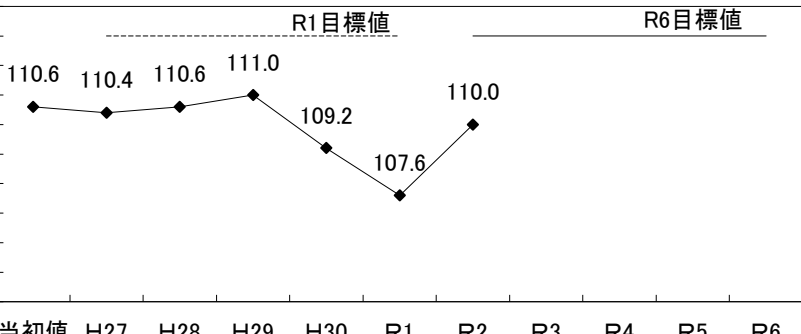
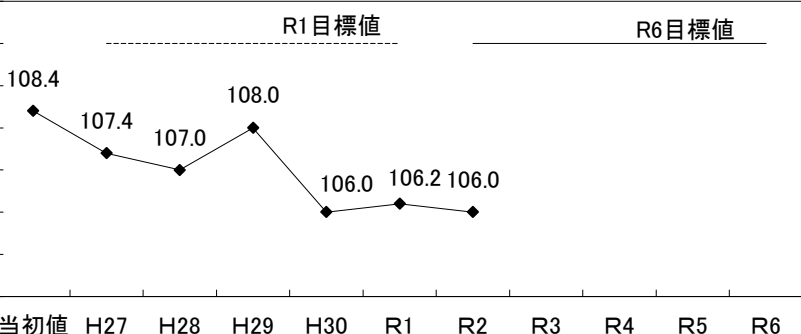
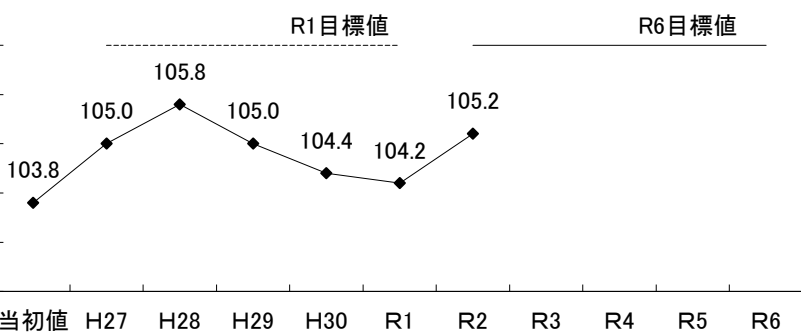
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学校教育課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	紀 修	内線 7330
小施策	17-1	小中学校教育の充実	評価 シート 作成者	松坂 保広	内線 7332

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
学力検査において、小学校の国語、算数及び中学校の国語、数学、英語とも全国水準を上回っているが、中学校の数学、英語は一層の向上を図る必要がある。また、義務教育9年間の系統性のある指導の充実を図る必要がある。 いじめやスマートフォンの使用に係る問題が発生していることから、生命を尊重する心や他人を思いやる心など、道徳的価値の自覚を促し、豊かな人間性を育む必要がある。 体力運動能力検査において、小中学校ともに走力に課題が見られることから、体力向上の取組の充実・改善を図る必要がある。また、学校給食については、老朽化した施設・設備の整備などを進める必要がある。 子どもを取り巻く環境が大きく変化してきていることから、児童生徒・家庭・地域社会・学校・行政が連携を図り、それぞれの役割と責任を明確にしながら、地域の子どもは地域で育てるという市民協働の教育を推進する必要がある。	児童生徒の学力の実態を的確に把握しながら、基礎的・基本的な学力の向上を図る。また、各中学校区の実状に応じて、これまでの連続した教育活動をより一層強化するものとした小中一貫教育や、自立して社会で生きていくための基礎を育むキャリア教育、情報化社会に対応した情報モラル教育を進める。 学校の教育活動全体を通した道徳教育の充実のほか、いじめを「つくらない」「みのがさない」「のこさない」取組や不登校対策の充実を図る。また、小中学校児童生徒を対象に、盛岡の先人や風土・文化を盛り込んだ先人教育を進める。 学校保健事業や体育振興事業の充実に努めながら、児童生徒の健康の保持と体力・運動能力の向上を図る。また、学校給食については、都南学校給食センターをはじめとする老朽化した各調理場の適正な規模、配置などを検討し、計画的に改築等を進める。 地域の教育課題を明確にしながら、学校と家庭、地域が一層連携を深め、地域に根ざした教育振興運動を展開する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
小中学生	・学力の向上が図られる。 ・心身ともに健全育成が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移					実績の評価	
指標① 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【小学校4年生・国語】	単 位	目指す方向			成 果 点	成果の要因分析
	ポイント	↗			・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「読むこと」領域の全国比が121であり、「話すこと・聞くこと」領域(119)、「書くこと」領域(116)及び「伝統的な言語文化と国語の特質」領域(111)でも全国平均を上回っている。 ・令和2年度は、全国学力・学習状況調査、岩手県学習定着度調査は実施されていない。	・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。 ・児童生徒質問紙調査(5年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する児童が増加したことによると考えられる。
当初値 (H25)	110.6	R1目標値	113.0	R6目標値	113.0	
					・誤答率が5割以上である小問内容7項目のうち、3項目が「書くこと」領域の内容である。	・目的や条件を踏まえて書く活動が不足しており、適切に表現する力が不足していると考えられる。
指標② 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【小学校4年生・算数】	単 位	目指す方向			成 果 点	成果の要因分析
	ポイント	↗			・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「数量関係」領域の全国比が114であり、「数と計算」領域(111)、「量と測定」領域(104)及び「図形」領域(103)でも全国平均を上回っている。 ・令和2年度は、全国学力・学習状況調査、岩手県学習定着度調査は実施されていない。	・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。 ・児童生徒質問紙調査(5年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する児童が増加したことによると考えられる。
当初値 (H25)	108.4	R1目標値	110.0	R6目標値	110.0	
					・誤答率が5割以上である小問内容4項目のうち、3項目が「図形」領域の内容である。	・「関連付けて考える」学習活動の不足から、図形の性質や図形の作図の根拠の理解不足が考えられる。
指標③ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【中学校2年生・国語】	単 位	目指す方向			成 果 点	成果の要因分析
	ポイント	↗			・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「話すこと・聞くこと」の全国比が113であり、「書くこと」領域(108)、「読むこと」領域(102)及び「伝統的な言語文化と国語の特質」領域(112)でも全国平均を上回っている。 ・令和2年度は、全国学力・学習状況調査、岩手県学習定着度調査は実施されていない。	・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。 ・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が増加しており、学習と部活動とのバランスが図られてきていることが考えられる。
当初値 (H25)	104	R1目標値	107	R6目標値	107	
					・「読むこと」領域の「説明的な文章を読むこと」、「語句や表現技法についての理解」において、全国平均を下回っている。	・「言葉による見方・考え方」を働かせて言語活動を行うことが不足しており、言葉の働きや文章構成等に着目した理解力が不足していると考えられる。

今後の方向性(令和3年度以降)
評価を踏まえた取組の方向性
★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
★ 校内研究会において、全市的共通取り組み内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を行い、子どもたちが学んだことを自覚し、達成感や有用感をもつことができるようにするとともに、言葉に着目しながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。
★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。
★各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。
★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。
★ 校内研究会において、全市的共通取り組み内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を行い、子どもたちが学んだことを自覚し、達成感や有用感をもつことができるようにするとともに、学習内容を関連させながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。
★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。
★各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。
★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。
★ 校内研究会において、全市的共通取り組み内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を行い、子どもたちが学んだことを自覚し、達成感や有用感をもつことができるようにするとともに、文章を目的的に読みながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。
★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。
★各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。
★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む生徒を育成する。

				成 果 点		→		成果の要因分析															
指標④ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生・数学】				ポイント	↗																		
当初値 (H25)		102.2		R1目標値		105.0		R6目標値		105.0													
<table><caption>小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生・数学】</caption><tr><th>年度</th><th>得点</th></tr><tr><td>H27</td><td>102.2</td></tr><tr><td>H28</td><td>101.4</td></tr><tr><td>H29</td><td>102.2</td></tr><tr><td>H30</td><td>103.0</td></tr><tr><td>R1</td><td>102.2</td></tr><tr><td>R2</td><td>102.6</td></tr></table>				年度	得点	H27	102.2	H28	101.4	H29	102.2	H30	103.0	R1	102.2	R2	102.6						
年度	得点																						
H27	102.2																						
H28	101.4																						
H29	102.2																						
H30	103.0																						
R1	102.2																						
R2	102.6																						
				・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「数と式」領域の全国比が112であり、「図形」領域(103)及ぶ「資料の活用」領域(109)でも全国平均を上回っている。				・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。															
				・令和2年度は、全国学力・学習状況調査、岩手県学習定着度調査は実施されていない。				・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が増加しており、学習と部活動とのバランスが図られてきていることが考えられる。															
				問 題 点		→		問題の要因分析															
				・「関数」領域の全国比が94で、全国平均を下回っている。小間についても15の内容のうち11の内容で全国通過率を下回っている。				・生徒が「数学的な見方・考え方」を働かせて、論理的、統合的・発展的に考える機会や、表・式・グラフを関連させながら事象について考察したり表現したりする機会が不足していると考えられる。															
				成 果 点		→		成果の要因分析															
指標⑤ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生・英語】				単位 ポイント	↗																		
当初値 (H25)		103.2		R1目標値		105.0		R6目標値		105.0													
<table><caption>小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生・英語】</caption><tr><th>年度</th><th>得点</th></tr><tr><td>H27</td><td>103.2</td></tr><tr><td>H28</td><td>104.2</td></tr><tr><td>H29</td><td>103.0</td></tr><tr><td>H30</td><td>104.0</td></tr><tr><td>R1</td><td>102.6</td></tr><tr><td>R2</td><td>105.0</td></tr></table>				年度	得点	H27	103.2	H28	104.2	H29	103.0	H30	104.0	R1	102.6	R2	105.0						
年度	得点																						
H27	103.2																						
H28	104.2																						
H29	103.0																						
H30	104.0																						
R1	102.6																						
R2	105.0																						
				・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「書くこと」領域の全国比が110であり、「聞くこと」領域(104)、「話すこと」領域(105)及び「読むこと」領域(107)でも全国平均を上回っている。				・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。															
				・令和2年度は、全国学力・学習状況調査は実施されていない。				・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が増加しており、学習と部活動とのバランスが図られてきていることが考えられる。															
				問 題 点		→		問題の要因分析															
				・「話すこと」領域の「テーマに沿ってスピーチする」、「読むこと」領域の「英文を正しく読み取る」において、全国平均を下回っている。				・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の全領域でバランスのとれた指導の継続が必要と考えられる。															
				成 果 点		→		成果の要因分析															
指標⑥ 不登校児童の出現率【小学校】				単位 ポイント	↘																		
当初値 (H25)		0.19		R1目標値		0.19		R6目標値		0.19													
<table><caption>不登校児童の出現率【小学校】</caption><tr><th>年度</th><th>出現率</th></tr><tr><td>H27</td><td>0.19</td></tr><tr><td>H28</td><td>0.37</td></tr><tr><td>H29</td><td>0.23</td></tr><tr><td>H30</td><td>0.58</td></tr><tr><td>R1</td><td>0.61</td></tr><tr><td>R2</td><td>0.75</td></tr></table>				年度	出現率	H27	0.19	H28	0.37	H29	0.23	H30	0.58	R1	0.61	R2	0.75						
年度	出現率																						
H27	0.19																						
H28	0.37																						
H29	0.23																						
H30	0.58																						
R1	0.61																						
R2	0.75																						
				・出現率は増加しているが、令和元年度に不登校の報告があった児童のうち、令和2年度に約3割が解消に至っている。				・欠席3日で校内「対応チーム」を発足するなど、組織的な対応をすることが浸透してきていることによると考えられる。															
								・学校外の関係機関やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携により、支援の充実が図られたことによると考えられる。															
				問 題 点		→		問題の要因分析															
				・出現率は目標値に比べて、高いまま推移している。				・要因の分類では、「無気力、不安、生活リズムの乱れ」が多く、「親子関係、家庭内不和」も見られ、人間関係づくりや学習面に困難を感じたりするなど、不安や悩みを抱える児童が増加してきている。															
				・不登校の人数は、103人となっており、小学校5年生が最も多く、全体の31%を占めた。次いで、6年生が全体の30%を占めている。																			
				・令和元年度の全国の出現率は0.83、岩手県の出現率は0.54となっている。																			
				・当初値0.19の人数は28人である。																			
				成 果 点		→		成果の要因分析															
指標⑦ 不登校生徒の出現率【中学校】				単位 ポイント	↘																		
当初値 (H25)		1.99		R1目標値		1.99		R6目標値		1.99													
<table><caption>不登校生徒の出現率【中学校】</caption><tr><th>年度</th><th>出現率</th></tr><tr><td>H27</td><td>1.99</td></tr><tr><td>H28</td><td>2.62</td></tr><tr><td>H29</td><td>3.10</td></tr><tr><td>H30</td><td>2.91</td></tr><tr><td>R1</td><td>3.33</td></tr><tr><td>R2</td><td>3.21</td></tr></table>				年度	出現率	H27	1.99	H28	2.62	H29	3.10	H30	2.91	R1	3.33	R2	3.21						
年度	出現率																						
H27	1.99																						
H28	2.62																						
H29	3.10																						
H30	2.91																						
R1	3.33																						
R2	3.21																						
				・出現率は増加しているが、新規不登校生徒の出現は抑制されている。				・不登校生徒への対応として、不登校児童生徒個票を活用したり、SSWと連携したり、適応指導教室「ひろばモリーオ」や医療、福祉等の関係機関と連携したりする等、各校の実態に応じた対策を心がけていることによると考えられる。															
								・各中学校において、「居場所づくり」や「絆づくり」についての実践が工夫されたことによると考えられる。															
				問 題 点		→		問題の要因分析															
				・出現率は目標値に比べて、高いまま推移している。				・要因の分類では、「無気力、不安、生活リズムの乱れ」といった本人に係る状況が小学生より高くなり、「親子関係、家庭内不和」といった家庭に係る状況の割合が増加傾向にある。															
				・不登校の人数は、247人となっており、不登校生徒の数は、中学校3年生が最も多く、中学校全体の約39%を占めた。次いで、中学校2年生が全体の約37%を占めている。				・「学業の不振、友人関係をめぐる問題」など学校に係る状況も含め、不登校の要因や背景が、年々多様化しており、家庭との連携を含めた各校における対応が難しくなっていることによるものと考えられる。															
				・令和元年度の全国の出現率は3.94、岩手県の出現率は3.07となっている。																			
				・当初値1.99の人数は153人である。																			

★ 校内研究会において、全市の共通取り組み内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を行い、子どもたちが学んだことを自覚し、達成感や有用感をもつことができるようにするとともに、数学的に表現し伝え合いながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。

★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。

★ 各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。

★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む生徒を育成する。

★ 校内研究会において、全市の共通取り組み内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を行い、子どもたちが学んだことを自覚し、達成感や有用感をもつことができるようにするとともに、領域を関連させながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。

★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。

★ 各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。

★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む生徒を育成する。

★ 「新規不登校児童の抑制」が最大の鍵である。不登校を未然に防ぐ学級経営や、学習指導の充実を図り、「居場所づくり」や「絆(きずな)づくり」を通して、全ての児童にとって「不登校にならない、魅力ある学校づくり」を推進する。

★ 「欠席3日で校内『対応チーム』を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。

★ 不登校・別室登校が継続している児童の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、“具体的計画立案 → 対応 → 評価 → 改善”のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。

★ スクールソーシャルワーカーや医療、福祉等の関係機関とのさらなる連携を図る。

★ 適応指導教室ひろばモリーオとの連携を図る。

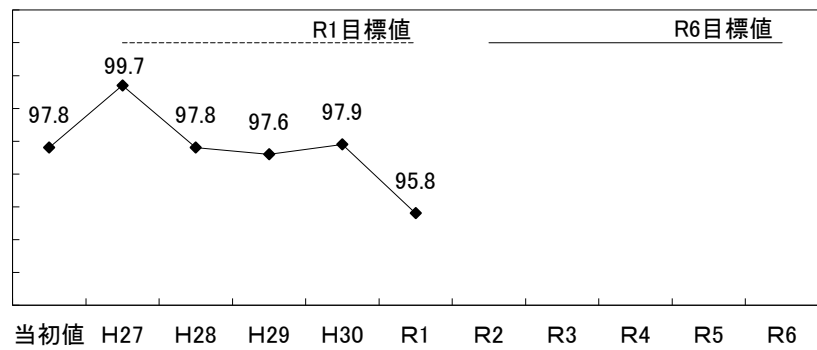
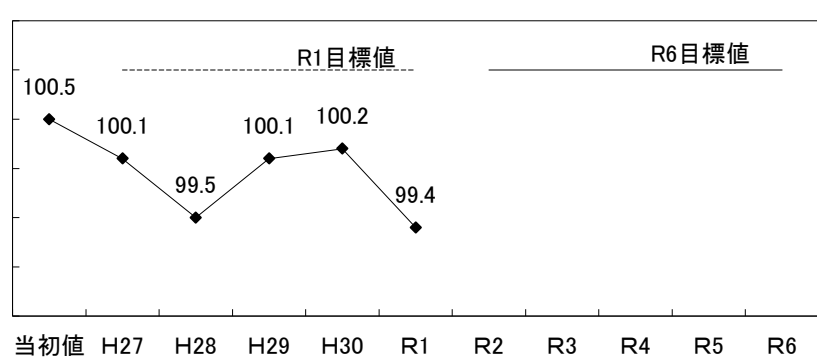
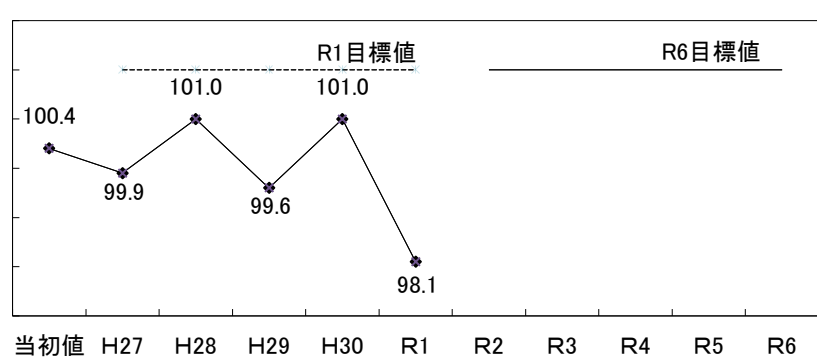
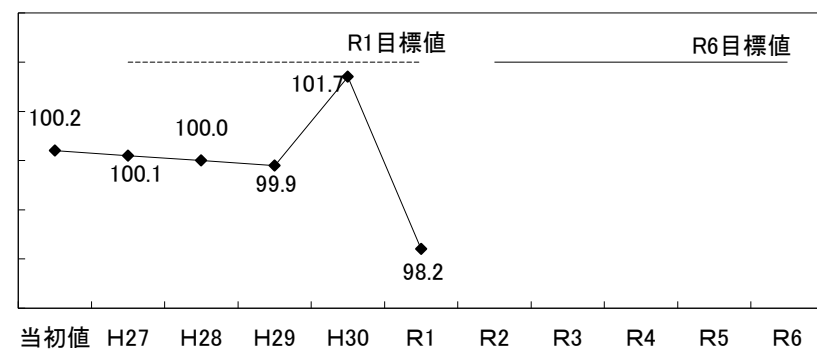
★ 「新規不登校生徒の抑制」が最大の鍵である。不登校を未然に防ぐ学級経営や、学習指導の充実を図り、「居場所づくり」や「絆(きずな)づくり」を通して、全ての生徒にとって「不登校にならない、魅力ある学校づくり」を推進する。

★ 「欠席3日で校内『対応チーム』を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。

★ 不登校・別室登校が継続している生徒の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、“具体的計画立案 → 対応 → 評価 → 改善”のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。

★ スクールソーシャルワーカーや医療、福祉等の関係機関とのさらなる連携を図る。

★ 適応指導教室ひろばモリーオとの連携を図る。

指標⑧ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:男】				単 位 ポイント	目指す方向 ↗	成 果 点		⇔	成果の要因分析					
当初値 (H25)		97.8	R1目標値		101.0	R6目標値		101.0	・令和2年度は、体力運動能力調査は、実施されていない。 ・50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果(令和元年度)による。 ・過去の体力調査結果では、落ち込みが見られる学年ではあるが、筋力(握力)が全国標準値を上回っている。		・体育の授業等での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQTトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考えられる。			
										問 題 点		⇔	問題の要因分析	
										・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)は、改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。		・正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。 ・登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考えられる。		
指標⑨ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:女】				単 位 ポイント	目指す方向 ↗	成 果 点		⇔	成果の要因分析					
当初値 (H25)		100.5	H31目標値		101.0	H36目標値		101.0	・令和2年度は、体力運動能力調査は、実施されていない。 ・50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果(令和元年度)による。 ・過去の体力調査結果では、筋力(握力)と敏捷性(反復横とび)に優れている学年であり、令和元年度では筋力(握力)、敏捷性(反復横とび)、瞬発力(立ち幅跳び)が全国標準値を上回っている。		・体育の授業での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQTトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考えられる。			
										問 題 点		⇔	問題の要因分析	
										・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)は、改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。		・正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。 ・登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考えられる。		
指標⑩ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:男】				単 位 ポイント	目指す方向 ↗	成 果 点		⇔	成果の要因分析					
当初値 (H25)		100.4	R1目標値		102.0	R6目標値		102.0	・令和2年度は、体力運動能力調査は、実施されていない。 ・50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ハンドボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果(令和元年度)による。 ・過去の体力調査結果では、投力(ハンドボール投げ)に優れている学年であり、令和元年度でも投力(ハンドボール投げ)が全国標準値を上回っている。		・体育の授業での運動量確保や、部活動での運動量確保と休養のバランスがとれたことなどによって基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考えられる。			
										問 題 点		⇔	問題の要因分析	
										・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)は、改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。		・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)の値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。 ・運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多い。		
指標⑪ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:女】				単 位 ポイント	目指す方向 ↗	成 果 点		⇔	成果の要因分析					
当初値 (H25)		100.2	R1目標値		102.0	R6目標値		102.0	・令和2年度は、体力運動能力調査は、実施されていない。 ・50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ハンドボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果(令和元年度)による。 ・過去の体力調査結果では、筋力(握力)、筋持久力(上体そらし)、柔軟性(長座体前屈)に課題が見られたが、改善が図られ全国標準値を上回っている。		・体育の授業での運動量確保や、部活動での運動量確保と休養のバランスがとれたことなどによって基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考えられる。			
										問 題 点		⇔	問題の要因分析	
										・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)は、改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。		・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)の値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。 ・運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多い。		

★ 徒歩の登下校を呼びかけや日常的な外遊びを働きかける等、60運動とも関連させながら、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。 ★ 「走る」に特化した研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用)
★ 徒歩の登下校を呼びかけや日常的な外遊びを働きかける等、60運動とも関連させながら、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。 ★ 「走る」に特化した研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用)
★ 小学校に引き続き、60運動に取り組むとともに、「走る」に特化しながら、体力の向上を図っていく。 ★ 体育の授業や、部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。 ★ 「走る」に特化した研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用)
★ 小学校に引き続き、60運動に取り組むとともに、「走る」に特化しながら、体力の向上を図っていく。 ★ 体育の授業や、部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。 ★ 「走る」に特化した研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用)

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

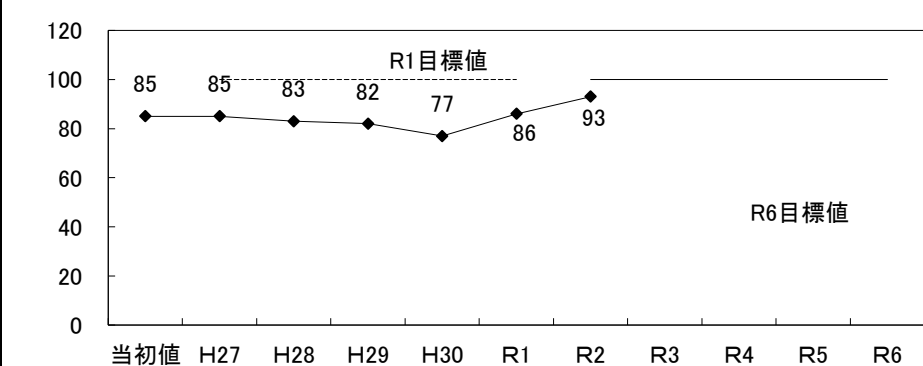
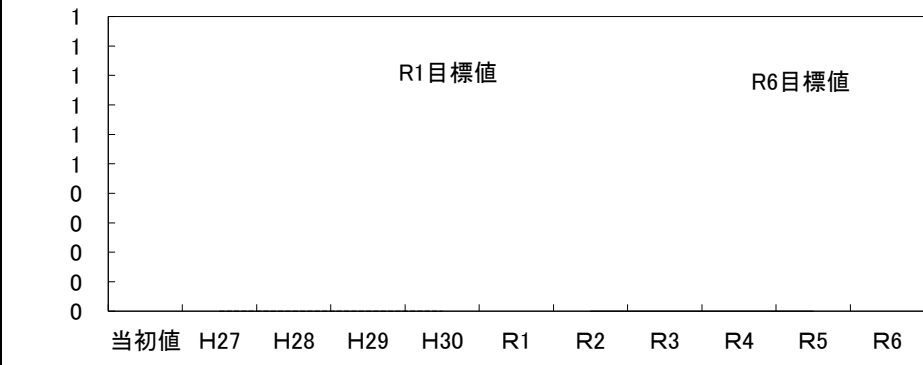
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学務教職員課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	飯岡 竜太郎	内線 7320
小施策	17-2	幼稚園教育の充実	評価 シート 作成者	伊藤 佳子	内線 7321

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
子育て相談などの子育て支援, 小学校及び地域との連携, 保護者のニーズに対応した保育サービスの一層の充実を図る必要がある。	生涯にわたる人格形成の基礎を培うため, 望ましい幼児教育や教育環境を提供するするとともに, 保護者への支援に取り組む。また, 幼稚園と小学校, 地域との連携を深める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
幼児	健やかな成長が図られる。
保護者	安心して幼稚園教育を受けさせることができる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和3年度以降)
指標① 保護者の満足度(市立幼稚園の保護者アンケートによる)	単 位	目指す方向		成 果 点	成果の要因分析	
	%	↗				
	当初値 (H25)	85	R1目標値 100	R6目標値 100		
				・保護者の満足度(・喜んで登園している・園は情報を伝える努力をしている・園児をよく理解し, 性格や長所を把握して指導に当たっている)が向上している。	・一人一人の幼児理解に基づく個の特性に応じた指導や, 異年齢のつながりを重視した教育活動等, 幼稚園から保護者への積極的な情報発信などの取組により, 保護者の満足度が向上していることが考えられる。	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
				問 題 点	問題の要因分析	
				・各幼稚園では, 園児の減少に伴い, 集団が小規模となり, 幼児同士の人間関係の固定化や体験できる遊びの限定, 集団生活を通して身に付けなければならない社会性をはぐくむことが難しい状況が生じている。	・保育所のニーズの高まり, 保育料の無償化, そして, 地域内における私立幼稚園の複数設置といった状況から, 園児数の減少が顕著になっていると考えられる。 ・預かり保育その他の取組の充実が求められているが, 運営効率の面から様々な取組の拡大は難しい状況である。	
				成 果 点	成果の要因分析	
指標②	単 位	目指す方向				
	当初値 (H25)		R1目標値	R6目標値		
				問 題 点	問題の要因分析	

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

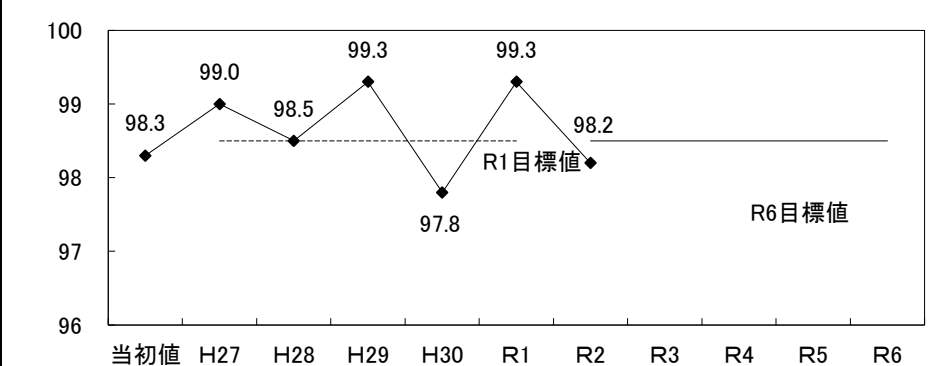
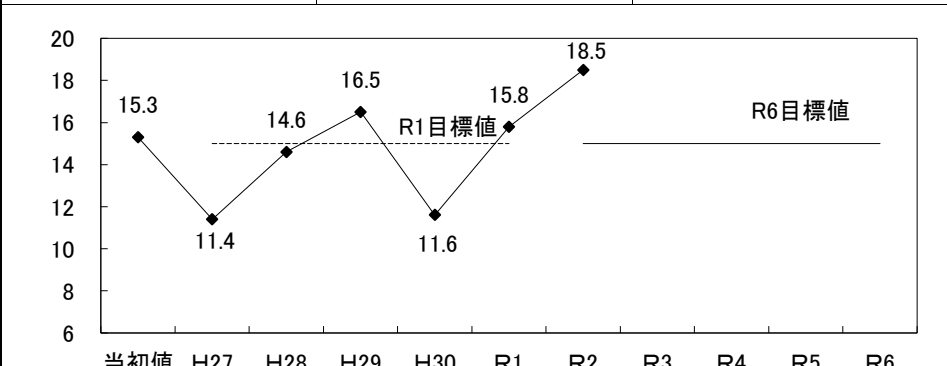
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学務教職員課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	飯岡 竜太郎	内線 7320
小施策	17-3	高等学校教育の充実	評価 シート 作成者	伊藤 佳子	内線 7321

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
生徒一人ひとりの進路目標を達成するため、ソフト・ハード両面からの教育環境の整備充実を図る必要がある。	学力の向上と部活動・特別活動の充実を図るとともに、規律のある生活習慣の確立と保健衛生・安全指導を推進するほか、一人一人の個性や希望をいかした進路指導の充実を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
盛岡市立高校生	学力の向上が図られる。 生徒一人一人の希望に沿った進路の実現が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 進学・就職進路達成率(進学・就職進路達成者数(実人数)／(卒業者数))	単 位	目指す方向		成 果 点	成果の要因分析
	%	→			
	当初値 (H25)	98.3	R1目標値 98.5	R6目標値 98.5	
				・志望する大学や専門学校に進学した。 ・志望する就職先に就職した(17年連続 就職率100%)。	・文武両道の教育方針の下、生徒一人一人の進路目標の実現に向けて、3年間を見通した進路指導計画に基づく指導や生活指導と一体化した進路指導等に取り組んできた。 ・就職支援相談員の配置により、企業が求める人材と生徒の希望や能力とを効果的に結びつける就職支援が行われ、進路指導が充実した。
指標② 国公立大学合格率(合格者数(実人数)／卒業者数)	単 位	目指す方向		成 果 点	成果の要因分析
	%	→			
	当初値 (H25)	15.3	R1目標値 15.0	R6目標値 15.0	
				・進学率、就職率の向上に向けた取組を充実させるとともに、社会構造や雇用環境が大きく、急速に変化する時代においても、社会的・職業的に自立し、社会の担い手となる人材の育成に向けた教育の充実が求められている。	・進学・就職進路達成率は、例年高い実績で推移しているが、今後求められる「将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力」の育成や、将来就きたい職業について深く考える機会の充実が必須である。
	単 位	目指す方向		成 果 点	成果の要因分析
	%	→			
	当初値 (H25)	15.3	R1目標値 15.0	R6目標値 15.0	
				・国公立大学(短大も含む)に50名が合格した(国公立大学44名、国公立短大6名)。 ・国公立大学以外も含めた進学志望者227名中222名が進学し、進学志望者数に占める進学者の割合は、97.8%となっている。	・文武両道の教育方針の下、受験に向けた指導を効果的に行うことにより、学力の向上を図る授業が充実した。
	単 位	目指す方向		成 果 点	成果の要因分析
	%	→			
	当初値 (H25)	15.3	R1目標値 15.0	R6目標値 15.0	
				・確かな学力を身に付けさせ、安定的に進路目標を実現できる生徒の育成に関して、授業やその他の教育活動の充実が求められている。	・特別進学コースの存在価値を明らかにするとともに、安定的な合格率を維持するためには、主要5教科の学びを基にした言語活動重視の対話型授業によるコミュニケーション能力の育成が求められており、そのような観点から、授業力向上に関する教職員の更なる研修は必要不可欠である。

今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
★ キャリア教育を充実させ、社会的・職業的自立に向けた総合生活力と人生設計力を育成する。 ★ 一人一人の自己実現に向けて、きめ細かな指導体制を確立する。 ★ 進路実現を支えるための教員・保護者向けの研修会・説明会を充実させる。 ☆1 「総合的な探究の時間」等をととして、地域・企業と連携し、進学希望者、就職希望者問わず、社会経済の仕組みの理解、地域理解、職業に関する知識を身に付けさせ、職業選択の能力や将来設計能力などを育成するキャリア教育の一層の充実を図る。 ☆2 キャリア教育の一環として、起業家精神や起業家的資質・能力を育成するための「起業家教育」の教育課程への位置付けとその充実について検討する。	
★ コロナ禍での対応となるが、可能な限り、岩大教職大学院等と連携し、生徒が意欲を高め、主体的に活動する授業づくり及び対話による授業展開についての研修を実施し、生徒の意欲が引き出される授業の改善へとつなげる。 ☆1 新学習指導要領の趣旨に基づいた教育課程の編成と授業改善を推進する。	

【小施策評価（令和2年度実績評価）】

小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学校教育課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	紀 修	内線 7330
小施策	17-4	教職員研修の充実	評価 シート 作成者	松坂 保広	内線 7332

小施策の概要

現状と課題（総合計画実施計画から転記）	取組の方向性（総合計画実施計画から転記）
学校の教育課題は年々複雑・多様化していることから、職能・経験年数や教育課題に応じた幅広い研修を実施し、教職員の資質や指導力の向上を図る必要がある。	日々の教育実践に必要な教職専門職としての研修を行い、教職員の資質や指導力の向上に努め、教育の質的向上を図る。
対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態）
教員	誠実公正でかつ指導力が向上されている。

小施策の成果指標の達成状況・評価（令和2年度実績）

実績値の推移				実績の評価	
				成 果 点	成果の要因分析
指標① 教育研究所公開講座参加者数				・令和元年度から、夏季のみ年1回の開催としている。	・公開講座の内容を吟味し、今日的教育課題（学習指導要領への対応・保幼小接続・自殺予防等）や各学校が課題としている内容（教育相談・特別支援教育等）、市の特色ある教育（先人教育等）、授業改善等の16講座を位置付けたことが、教員の講座への参加意欲に繋がったと考えられる。
当初値（H25）	602	R1目標値	400	R6目標値	400
				・参加希望者（386人）が多く、全ての講座で参加者を抽選で決定し、参加できなかった教員には、資料の配布を行った。	
				問 題 点	問題の要因分析
				・今後、夏期休業中の開催では、県教委の教育課程説明会や授業力向上研修、中学校の運動部の東北大会、高校体験入学等が重なることが予想され、開催期日については、工夫する必要がある。	・開催期日が、授業力向上研修や教育課程説明会といった、県教委の研修との重複も予想されることから、教員にとって、参加しにくいことが考えられる。
				成 果 点	成果の要因分析
指標② 公開講座参加者の満足度				・参加者アンケートでは、満足度は高い（4段階評価のうち3と4が多く、平均3.85）。	・研修講座を、令和元年度の参加者アンケートを踏まえながら、位置付けたことや、講義だけではなく、活動を取り入れるなどの工夫が、満足度の向上に繋がったと考えられる。
当初値（H25）	99.7	R1目標値	100.0	R6目標値	100.0
				・アンケートでは、講義だけでなく、協議や演習、実技、見学等の工夫により、研修の充実が図られているとの指摘が見られた。	
				問 題 点	問題の要因分析
				・令和元年度と比較すると、満足度は上がっているが、目標値には達していない。	・満足度の向上は、研修講座の内容が教員のニーズと合致することが大切であり、今後もこの視点から講座内容を吟味していく必要があると考えられる。
				・アンケートでは、少数ではあるが、他の研修等との開催期日の重なりや講座の時間が短いとの指摘が見られた。	また、講座の内容により、講座時間を工夫していくことが考えられる。

今後の方向性（令和3年度以降）

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
★ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度も各講座に定員（全講座定員445人）を設け、感染症対策を徹底して開催する。	
★ ICT活用講座、コミュニティ・スクール講座は、小・中学校の悉皆研修として開催する。	
★ 岩手県立総合教育センターが開催する、授業力改善研修、教育課程説明会や学校行事等の開催期日等について確認しながら、開催する。	
★ 従来の講座に加えて、今日的課題、教員のニーズを踏まえ、「ICT活用」「コミュニティ・スクール」「生徒指導（いじめ）」「教育相談（LGBT）」に係る講座を新設し、全19講座で開催する。	
★ 講座の内容に応じて、各学校の効果的な実践事例を取り上げ、2学期からの教育活動の充実を図る。	
★ 岩手県立総合教育センターが開催する、授業力改善研修、教育課程説明会や学校行事等の開催期日等について確認しながら、開催する。	

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

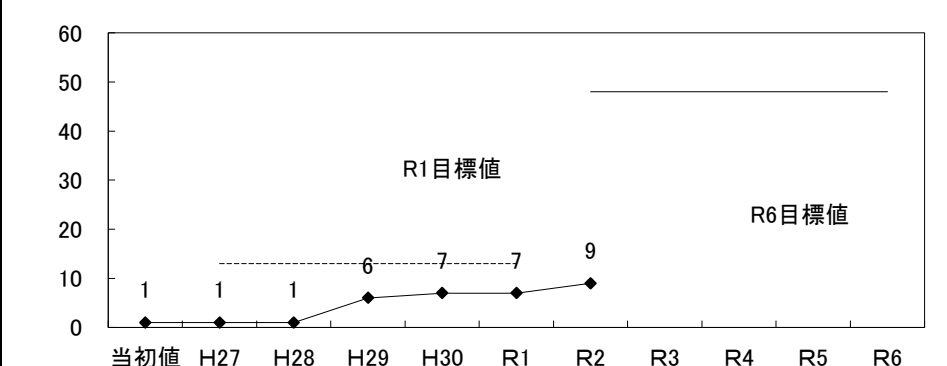
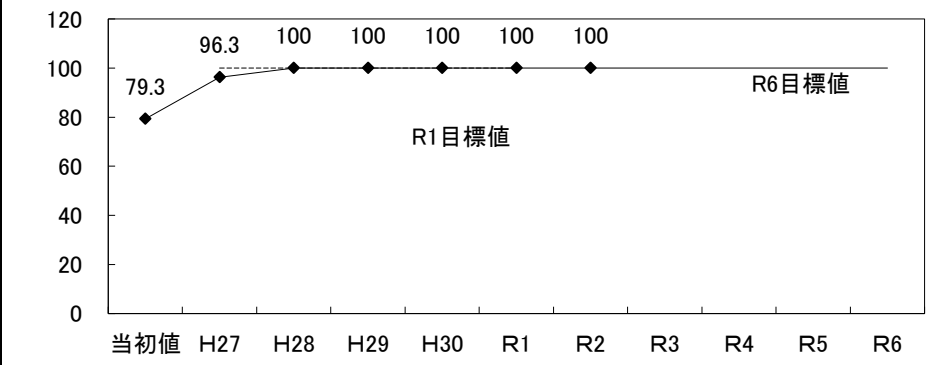
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	[教委]総務課	
施策	2	子ども・子育て、若者への支援	評価 責任者	工藤 浩統	内線 7310
小施策	17-5	学校施設の整備・充実	評価 シート 作成者	齊藤 敏孝	内線 7312

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
施設の老朽化・劣化が進んでいることから、計画的・効率的な施設の整備や適切な維持保全による施設・設備の長寿命化を図る必要がある。また、バリアフリー化などの学習環境の整備や災害時の地域の避難所としての機能の充実も必要となっている。	予防保全型の計画的な修繕を行うことにより、学校施設の適切な維持管理と長寿命化の視点に立った施設・設備の保全を計画的に推進する。また、大規模改修を行う際は、ユニバーサルデザインの導入により安全性を確保するとともに、災害時の地域の避難場所としての機能を確保する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
小中学校施設等	充実した教育環境に整備され、良好に保たれている。
小中学生	・小中学生の学校内での安全性が向上する。 ・小中学生が、快適な環境で学校生活を過ごすことができる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 校舎等大規模改修着手校数				単 位 校	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	1	R1目標値	13	R6目標値	48
				・令和元年度までに実施した7校に加え、新たに2校の大規模改修に着手できた。 ・既に着手している事業に係る工事及び実施設計を実施することができた。	
指標② 耐震化率				単 位 %	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	79	R1目標値	100	R6目標値	100
				・完了済。	
				・特になし。	
				・特になし。	

今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
★ 「長寿命化工事実施マニュアル」に基づき、事業費の精査を行い、限られた財源を効果的に活用することにより、将来にわたって様々なニーズに対応できる施設整備に努めていく。また、「公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」の改訂を受け、下記事項について取り組む。	
1. 校舎安全対策改修 2. 校舎・屋内運動場のトイレ整備	
★ 他用途施設との複合化 「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」と整合を図りつつ、施設の複合化が円滑に進むよう関係団体、関係部署等と緊密な調整を進めていく。	
★ 学校プール老朽化への対応 次に掲げる対応の検討を進める。 1. 複数校でのプール施設の共同利用 2. 民間施設を活用した水泳指導 3. 総合プール等の市立プール施設の活用	
特になし。	

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

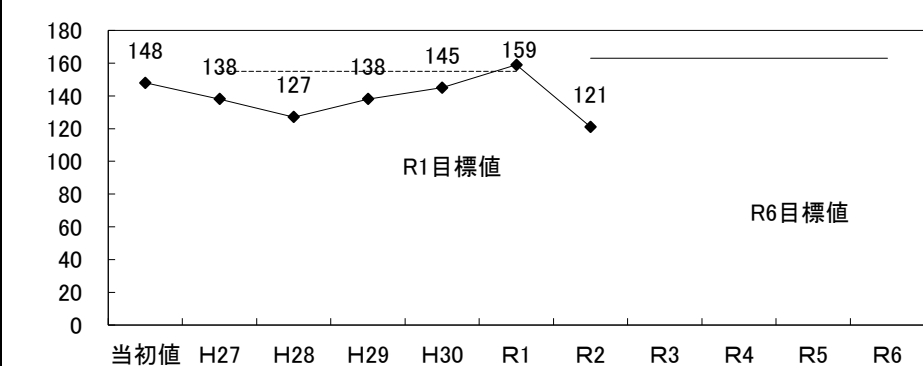
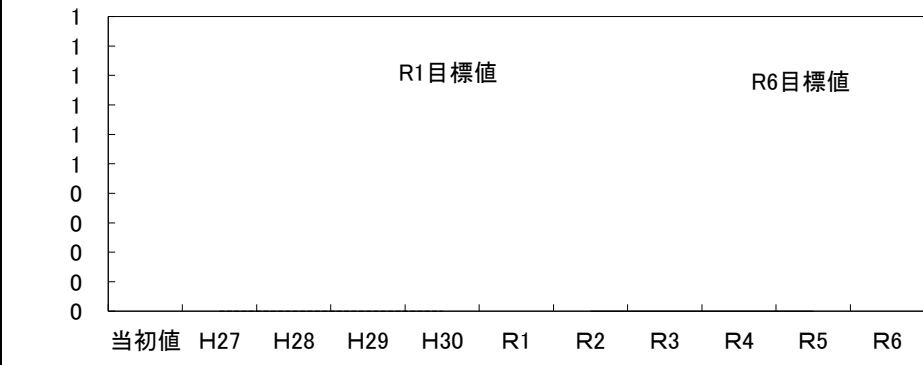
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	生涯学習課	
施策	18	生涯学習の推進	評価 責任者	梅原 格	内線 7340
小施策	18-1	社会教育の充実	評価 シート 作成者	森田 美彦	内線 7341

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民一人一人が、生涯にわたり生きがいを持って充実した生活を営み、学んだ成果を社会に還元することができるよう、社会的な課題と市民ニーズを把握した学習機会の拡充を図るとともに、生涯学習に関する相談に的確に対応していく必要がある。	学習情報の提供や学習相談への対応を適切に行うとともに、社会の変化に対応した課題に関する学習機会を提供するほか、地域や家庭における教育力の充実を図るための支援を行う。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	学習活動の継続と推進を図る。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 学びの循環推進事業の利用回数				成 果 点	成果の要因分析
				・学びの循環推進事業は、多彩な講座メニューを用意し、市民グループの申請に基づき、講師を派遣する事業であり、コロナ禍で利用回数は減ったものの、市民の継続的な学習活動の推進が図られた。 ・家庭教育支援など、社会教育事業の実施により、市民の学習機会の充実が図られた。 ・新成人リーダーの育成が図られた。	・学びの循環推進事業は、社会的な課題と市民ニーズに応じた講座メニューの提供に努めたこと。 ・コロナ禍においても、感染防止対策を施しながら家庭教育支援に係る講座の開催、家庭教育情報誌の発行、青少年教育、社会教育関係団体への活動支援など、各種社会教育事業を継続し行ったこと。 ・成人のつどい実行委員会を新成人で組織し、コロナ禍においても工夫した企画運営をすることにより青年リーダーの養成につながっていること。
当初値 (H25) 148 R1目標値 155 R6目標値 163				問 題 点	問題の要因分析
				・学びの循環推進事業における、岩手大学(教育学部・農学部)と連携して大学教員を講師として派遣する「専門コース」の活用が少ない。 ・中学生交流事業や中学生リーダー育成事業の多くが実施できなかった。 ・社会教育団体の公民館利用数が減少した。	・大学教員による講座は、地域住民の学びの場として、内容が高度すぎるのではという思い込みから敬遠されている傾向にある。 ・生徒の健康・安全を第一と判断し、中学生関連の事業を中止したことによる。 ・コロナ禍が長期間に及んでいるため、公民館利用団体の活動自粛や再開が繰り返されたことによる。
指標②				成 果 点	成果の要因分析
当初値 (H25) R1目標値 R6目標値				問 題 点	問題の要因分析
					

今後の方向性(令和3年度以降)

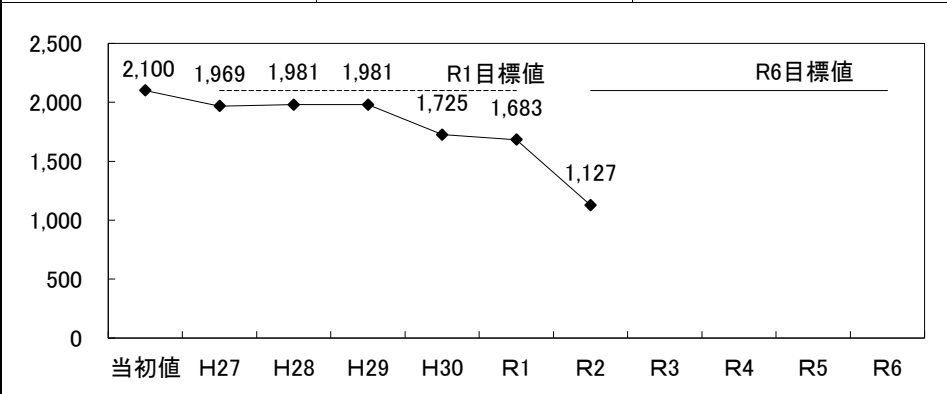
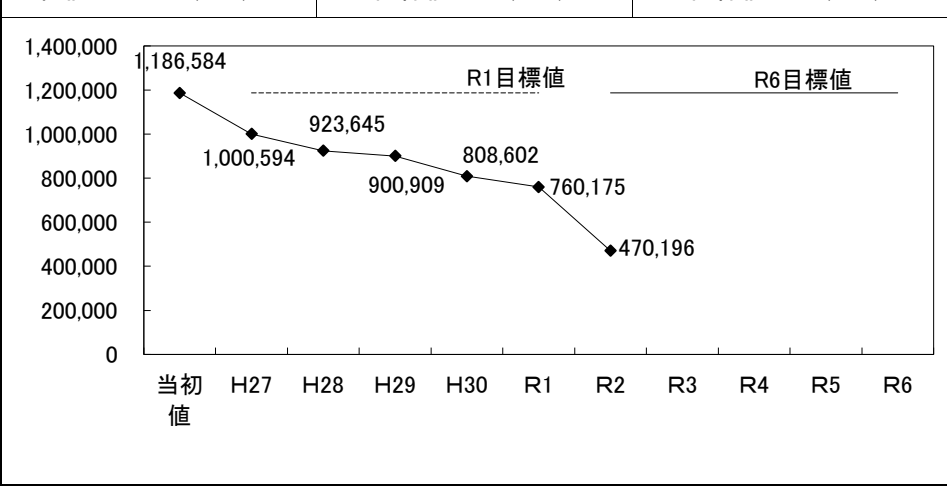
評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
★ 学びの循環推進事業は、特に「専門コース」に力を入れ、岩手大学の生涯学習領域の窓口と連携強化を図りながら、防災・環境など社会的課題や市民ニーズに合致させていくとともに、他大学との連携についても検討していく。	
★ 学びの循環推進事業は、家庭教育学級や社会教育関係団体等の会議の場などを活用するなど効果的な周知方法を検討する。	
★ 家庭教育支援、青少年教育など社会教育に係る学習機会と団体の育成支援の継続に努める。	
★ 中学生リーダーや新成人リーダーの育成の継続に努める。	

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	生涯学習課	
施策	18	生涯学習の推進	評価 責任者	梅原 格	内線 7340
小施策	18-2	社会教育施設の整備・充実	評価 シート 作成者	森田 美彦	内線 7341

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				単 位	目指す方向
指標① 学習講座数				講座	→
当初値 (H25)	2,100	R1目標値	2,100	R6目標値	2,100
					
指標② 社会教育施設利用者数				人	→
当初値 (H25)	1,186,584	R1目標値	1,187,000	R6目標値	1,187,000
					

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
生涯学習の推進のためには、活動場所となる社会教育施設の利便性・安全性の確保が必要であり、老朽化した施設・設備の改修・修繕や新築などの要望に適切に対応する必要がある。	社会教育施設の老朽化対策を進め、必要な施設整備を行うとともに、公民館、図書館などの社会教育施設で行う事業を充実させる。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	学習の場及び講座等の多様なメニューを提供する。
社会教育施設	計画的な整備や修繕を実施する。

今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
「強化につながるもの」 ★ 市民ニーズの把握に努め、学習テーマのバランスを図り、魅力ある講座を実施する。 ★ 各種講座、事業、職員研修の実施に当たり、大学の生涯学習領域の窓口と連携強化を図っていく。	
「強化につながるもの」 ★ 市立図書館について、工事に係る閉館期間中における図書サービスを充実させるとともに、図書館協議会委員などの意見を聞きながら図書館の在り方を検討していく。 ★ 子ども科学館について、展示物の更新と併せた効果的な整備手法を検討するため、整備基本構想案を作成する。なお、天文台を新たに整備することについては、費用対効果の観点などから、近隣自治体に設置している天文台を活用した事業実施や、ソフト事業の充実などにより代替可能か検討していく。 ★1 (仮称)南部公民館について、整備位置を確定し、早期の事業予算化を図る。 ☆ 上田公民館の大規模改修に着手する。 ☆ 見前地区公民館について、計画的な整備を行うため長寿命化修繕(20年目)を行う。 ☆ 飯岡地区公民館について、計画的な整備を行うため長寿命化修繕(20年目)を行う。 ☆ 都南図書館について、計画的な整備を行うため長寿命化修繕(20年目)を行う。	

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

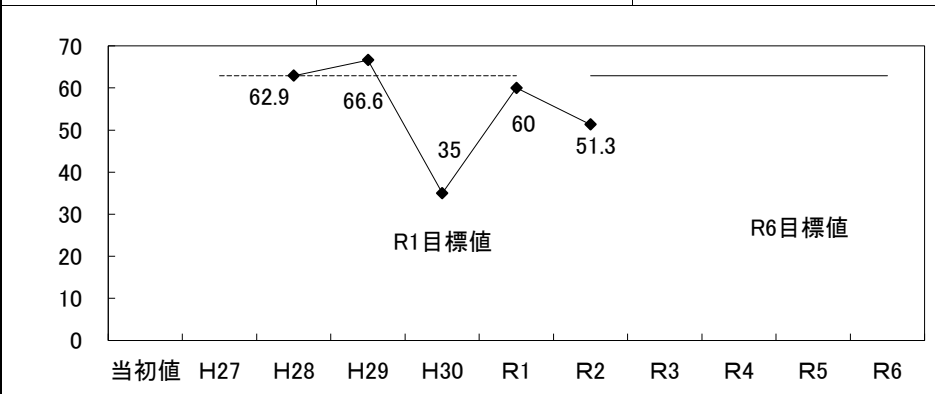
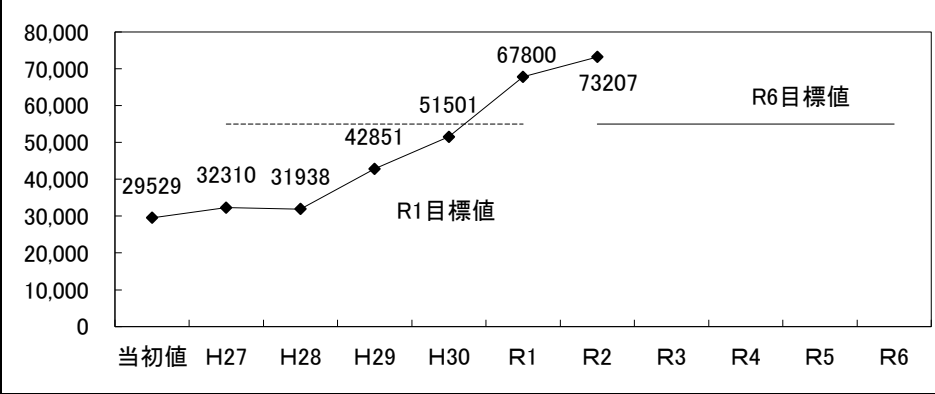
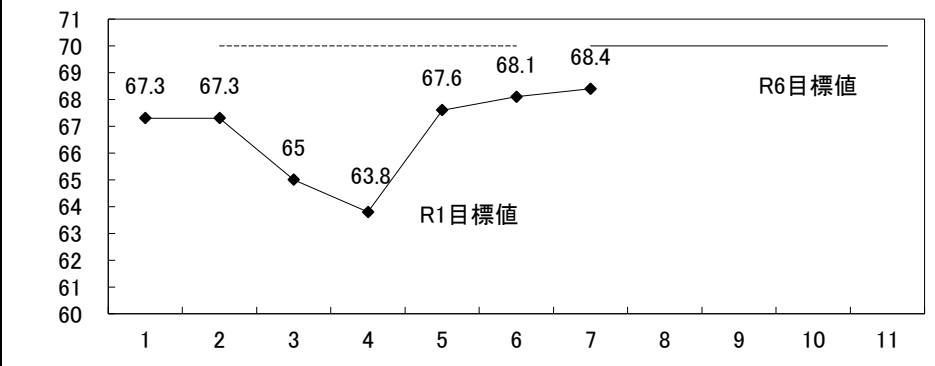
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	経済企画課	
施策	19	社会を担う人材の育成・支援	評価 責任者	及川 隆	内線 8210
小施策	19-1	若い世代の活躍支援	評価 シート 作成者	小山 訓	内線 8211

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
若者を取り巻く労働環境は、非正規雇用などの不安定な雇用、求人側と求職側のニーズが一致しない雇用のミスマッチのほか、地元企業の認知度が低く、県外に就職先を求める若者が多いことなどの課題がある。また、教育や職業訓練などを受けない無業者、いわゆるニートと呼ばれる若者が存在するなどの課題がある。このため、在学中からキャリア教育などによる就労観の育成や地場企業を知る機会を設けるなど、若者が社会で活躍できるためのさまざまな支援を行う必要がある。 女性の労働力率は、子育て期に当たる30歳台で低下するものの、就職希望者は多く、非常に大きな潜在力となっている一方で、さまざまな課題があることから、就業や社会参加など個々に支援が必要となっている。	若い世代に対して、就業や職場定着などに係る情報提供や各種支援を行い、就学等から就業へ円滑に移行できる環境を整える。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	社会で活躍できる

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移					実績の評価	
					成果点	成果の要因分析
指標①	もりおか若者サポートステーションに年度内に新規登録した盛岡市民のうち就職決定した者の割合	単 位	%	目指す方向	↔	
当初値 (H28)		R1目標値	63	R6目標値	63	
					・利用者の抱える問題が複雑化し、一人一人に対する支援に要する期間が長期化する中で、新規登録者に対する就職者の割合は昨年度と同程度を維持できている。 ・各関係機関や病院との連携が図られており、全体の新規登録者数も令和元年度131人に対して163人と増加している。また、盛岡市在住の新規登録者も令和元年度の75人に対して令和2年度は78人とおおむね維持ができています。	・臨床心理士によるカウンセリングが実際の職場への恐怖心を和らげることができた。 ・ボランティア体験の実施が、将来の就職に向けた方向性を見つけることに役立っている。 ・居場所事業の実施により、仲間ができることで励みにつながっている。
					問題点	問題の要因分析
もりおか若者サポートステーションの支援を必要とする若年無業者の全容把握が困難である。						若年無業者になる背景には、心身の健康上の理由や人間関係に対する不安など、複雑な要因があり、家族が公にすることを避ける例も多いと考えられる。
指標② ジョブカフェいわての利用者数					成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	29,529	R1目標値	55,000	R6目標値	55,000	
					・利用者が目標の1.3倍超となっている。	・県事業との連携によるきめ細かなカウンセリング等により、利用者に寄り添った並走的支援ができています。
					問題点	問題の要因分析
・特になし						・特になし
指標③ 盛岡公共職業安定所管内の就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合					成果点	成果の要因分析
当初値 (H25)	67	R1目標値	70	R6目標値	70	
					・県内就職を希望する者の割合が昨年度より0.3ポイント増加し、目標値に近づいている。 ・企業の新卒採用に対する意欲も高い。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、大都市圏の就職先を避ける傾向があったと思われる。	・インターンシップ事業や、モリオカシゴトカメラの配布など地元企業を知ってもらうための取り組みにより、地元企業の魅力が徐々に高校生に伝わってきている。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、大都市圏の就職先を避ける傾向があったと思われる。
					問題点	問題の要因分析
・目標到達に至っていない。						・賃金について、東京都の373.6千円を100とした場合、岩手県は245.9千円と65.8であり、賃金格差が顕著である(令和2年度賃金構造基本統計調査)ことから、県外を希望する者が多い。 ・高校生及び保護者が地元企業を十分に知らないことから、県内企業が就職先として選ばれない。

今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性

★…R3年度着手済または着手予定
☆…R4年度以降の着手を検討

★ 今後も利用者の維持・増加に向けて周知・PRを図る。

★ 今後も利用者の維持・増加に向けて周知・PRを図る。

★ 高校生の地元就職希望を高めるため、盛岡広域圏8市町連携によるインターンシップ事業等により地元企業の周知に努めるほか、地元で働き生活することの魅力の発信を早い段階から行う。

★ 高校生インターンシップ事業について、企業への周知を強化する。

☆1 高校生を対象とした1つの会場で複数の職業体験や職業を知るためのイベントを開催し、市内に多くの職業があることを知ってもらうことにより、将来的に県外に進学したとしても、地元就職を検討する機会を提供する。

【小施策評価（令和2年度実績評価）】

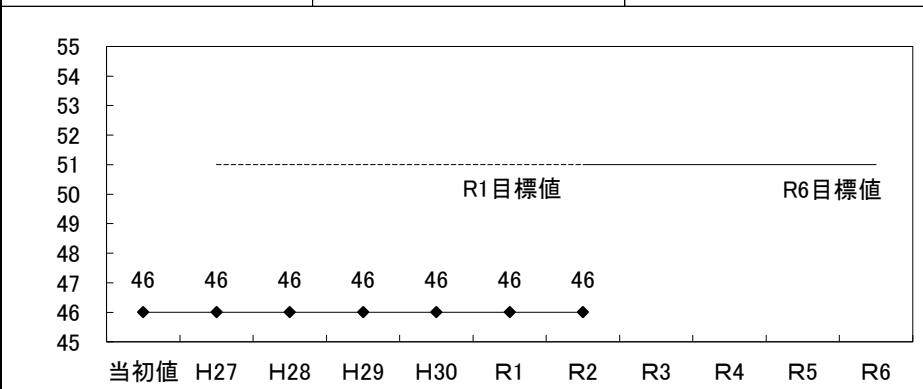
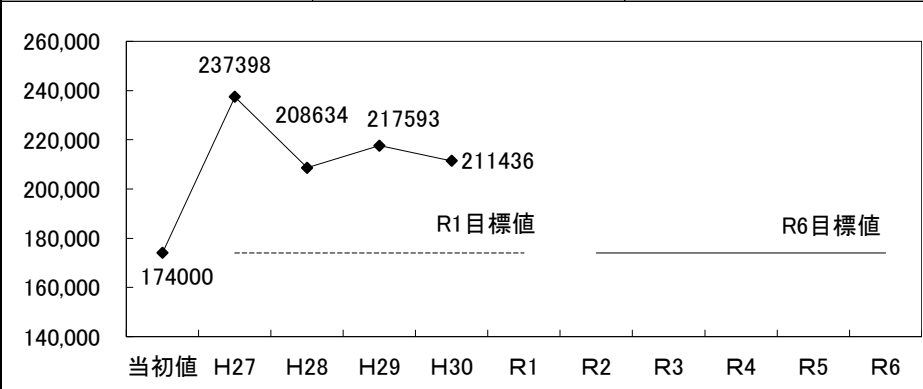
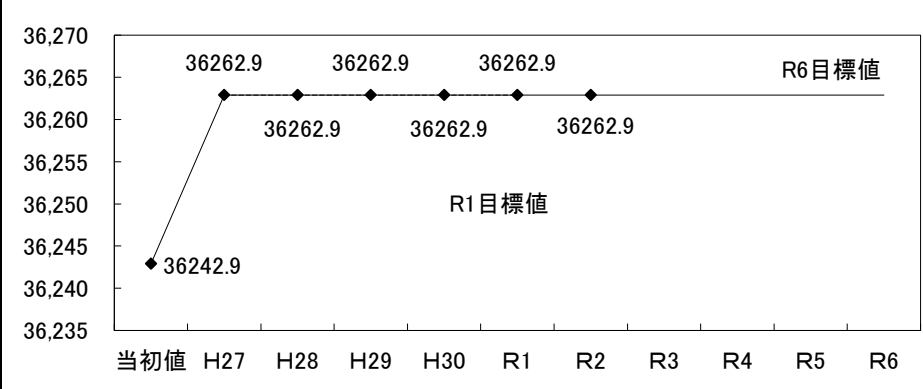
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	池田 陽一	内線 8410
小施策	20-1	自然の保護と活用	評価 シート 作成者	鈴木 秀一	内線 8411

小施策の概要

現状と課題（総合計画実施計画から転記）	取組の方向性（総合計画実施計画から転記）
・平成27年度に策定した自然環境及び歴史的環境保全計画に基づき、市域の自然環境調査を行う必要がある。また、玉山地域を中心に、自然環境及び歴史的環境保全条例に基づく環境保護地区などの新たな指定について検討する必要がある。 ・自然環境及び歴史的環境保全条例に基づき指定している環境保護地区、保護庭園及び環境緑化地区について、所有者・管理者や地域の理解を得ながら管理していく必要がある。 ・近郊自然歩道9路線について、ガイドマップを配布するとともに、環境部ホームページ上に詳細なコースマップや花暦、鳥暦などを掲載している。今後も適切な維持管理を行い、利用者の利便及び安全確保に努めるとともに、玉山地域に新たな路線の設定について検討し、盛岡の豊かな自然環境をより広く発信する必要がある。 ・近年、ツキノワグマやニホンジカなどの野生動物が市街地にも出没するケースが増えており、市民の安全・安心の観点からも関係機関が連携して野生動物の適正な保全・管理を図り、生物の多様性を確保する必要がある。	盛岡が誇るうおいや安らぎをもたらす里山の緑、きれいな水や空気を生み出す森林、河川の清らかな水辺など、かけがえのない自然や多様な生物が生息する環境を適切に守り、次世代に引き継ぐとともに、自然に親しむ機会を増やし、より多くの人々が身近に自然を感じられるような環境づくりを進める。
対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態）
身近な自然、森林・水源、その他（動植物）	自然が守られる。
市民	自然に親しむ機会が多くなる。

小施策の成果指標の達成状況・評価（令和2年度実績）

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性（令和3年度以降）
				成果点	成果の要因分析	
指標① 近郊自然歩道設置総延長				単 位 km	目指す方向 ↗	
当初値（H25）	46	R1目標値	51	R6目標値	51	
				・散策路を安全に利用してもらえるようになった。	・近郊自然歩道ガイドブックを観光案内所に配置したり、環境学習講座参加者へ配布する等周知に努めたため。 ・業務委託と市直営により、近郊自然歩道の倒木や枝の排除、草刈り、案内板の補修等が実施されているため。	
				問題点	問題の要因分析	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
指標② 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される自然体験、自然との共生に係る環境教育、環境啓発事業等への参加者数				単 位 人	目指す方向 →	
当初値（H25）	174,000	R1目標値	174,000	R6目標値	174,000	
				・市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される自然体験、自然との共生に係る環境教育、環境啓発事業等への参加者数が、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止等により減少したが、開催した事業に参加してもらうことにより、環境に対する意識の啓発ができた。	・市民が身近に自然環境に親しむことができる山や散策路があるため。 ・環境学習講座など自然を体験する機会があるため。 ・SDGsを取り上げられる機会が増えたことにより、環境に対する意識の啓発が行われたため。	
				問題点	問題の要因分析	
指標③ 市域における山林・農地等の面積				単 位 ha	目指す方向 →	
当初値（H25）	36,243	R1目標値	36,263	R6目標値	36,263	★ 継続して巡視・維持管理を行なう。
				・市域における山林・農地等の面積が維持できていることから、森林においては二酸化炭素の吸収源となり地球温暖化防止や治山治水機能などが発揮されており、農地については保水能力の維持が図られているため、自然環境の保全に寄与している。	・適切な森林管理や農地管理が図られているため。	
				問題点	問題の要因分析	
				・特になし。	・特になし。	
				・特になし。	・特になし。	

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

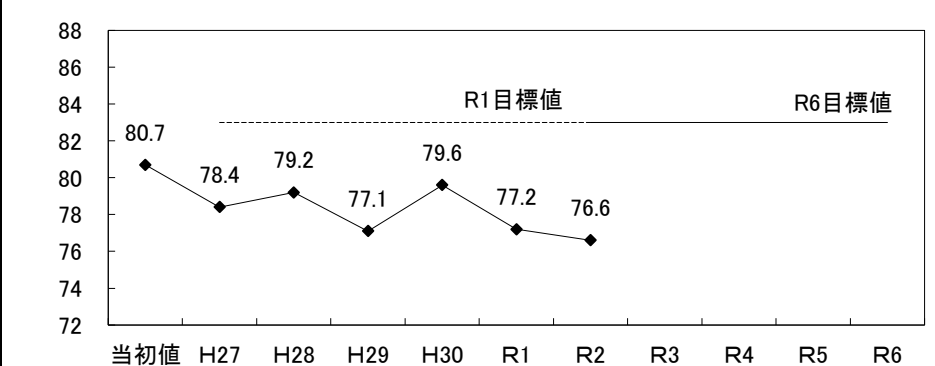
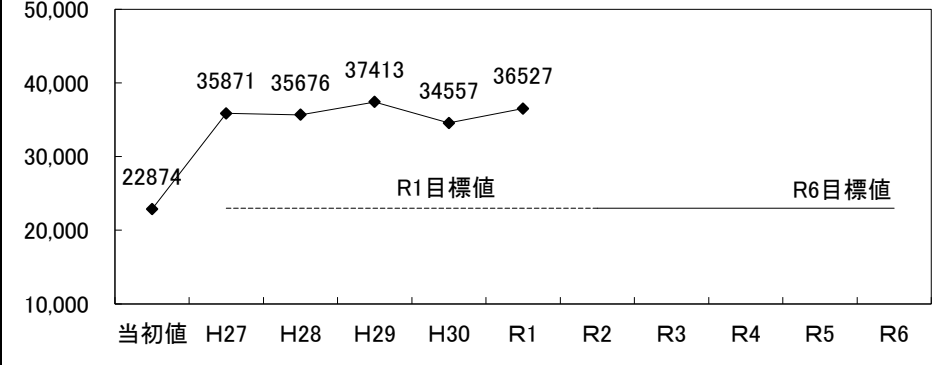
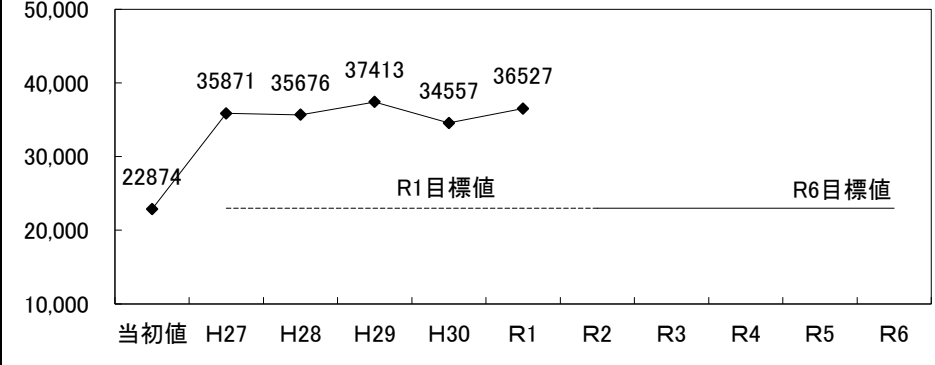
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	池田 陽一	内線 8410
小施策	20-2	環境を大切にする心の育成	評価 シート 作成者	鈴木 秀一	内線 8411

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民一人ひとりの節電・省エネへの取組やライフスタイルの変革などが求められていることから、将来を担う子どもたちから大人まで、すべての市民が身近な環境から地球規模の環境問題まで関心を持ち、理解を深め、環境を大切にする意識を高める必要がある。	市民や事業者などが利用しやすい環境情報の発信や、さまざまな環境啓発事業を通じて、市民の環境を大切にす る心の育成を図り、環境に配慮した行動を促進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民	地球環境の保全の大切さが理解される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価		⇒	今後の方向性(令和3年度以降)
指標① まちづくり評価アンケート調査「CO2の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合				成果点	成果の要因分析		
当初値 (H25)	81	R1目標値	83	R6目標値	83		
				・環境部ホームページの閲覧者が前年度比96.27%で、H28年度から毎年増加していたが、わずかながら減少した。	・各種行事の参加申し込みを「ecoもりおか」からできるよう広報やホームページで周知し、申し込みを機にアクセスするきっかけになっていたと思われるが、新型コロナウイルス感染防止のため主催行事が減少し、閲覧機会も減ってしまった可能性が考えられる。		★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
指標② 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される地球環境への貢献に係る環境教育・環境啓発事業への参加者数				問題点	問題の要因分析		★ 環境部ホームページの内容の更なる充実を図るとともに、更新頻度の増加、イベント実施のプラットフォームとしての活用などにより、啓発ツールとしての価値を高める。 ★市民が「地球環境に優しい生活」に取組めるよう、具体的な取組事例をホームページや広報もりおか、環境学習講座等で広く周知する。
当初値 (H25)	81	R1目標値	83	R6目標値	83		
				・まちづくり評価アンケートによる、地球環境にやさしい生活を心がけている市民の割合が目標値に達していない。また、当該割合が昨年度から減少した。	・「地球環境にやさしい生活」を心がける理由とその方法が周知しきれていない。		
指標③ 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される地球環境への貢献に係る環境教育・環境啓発事業への参加者数				成果点	成果の要因分析		
当初値 (H25)	22,874	R1目標値	23,000	R6目標値	23,000		
				・エコライフ推進イベントを従来のイベント方法ではなく、動画を作成しYouTubeで配信する方法をとり、前年度6,500人(来場者)に対して8,529回(動画再生回数)となり、31.2%増加した。	・感染防止対策としてエコライフ推進イベントを動画配信にしたことで、それぞれの分野(エコライフコンサートの参加者及び家族の視聴、“温泉”をきっかけにした検索・視聴など)ごとに視聴者が生まれたと考えられる。		★ 感染予防をしながら、エコライフ推進イベントの内容の更なる充実を図る。
				・環境学習講座の参加者が(減少した)。	・(感染防止のため、例年通りの講座の実施が困難な時期があったことによると思われる)。		★ 環境学習講座の内容や日程・募集人員を精査し、参加しやすい設定を検討する。
指標④ 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される地球環境への貢献に係る環境教育・環境啓発事業への参加者数				問題点	問題の要因分析		
				・			

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

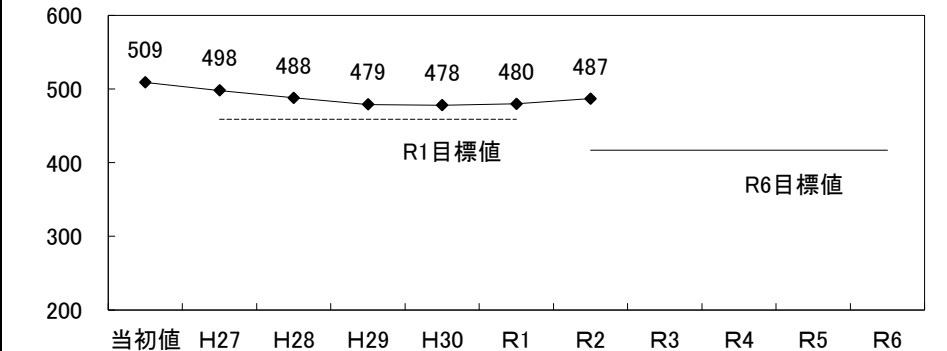
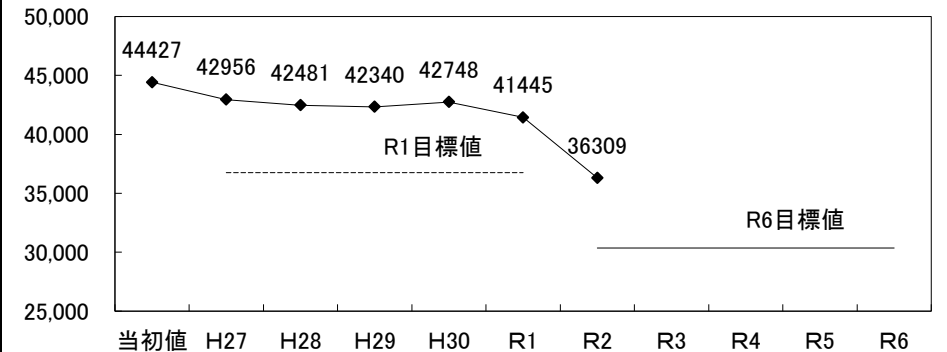
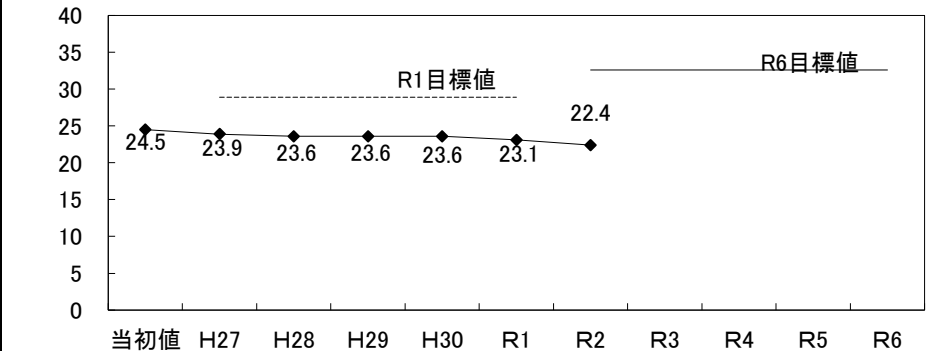
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	廃棄物対策課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	山内 真澄	内線 8300
小施策	20-3	資源循環型社会の形成	評価 シート 作成者	南幅 嘉人	内線 8301

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
ごみ総排出量は、年々減少している状況です。資源を大切にし、地球環境の保全に貢献するため、引き続き一般廃棄物の減量に向けて取り組む必要があります。	市民・事業者・行政の三者が協働して、廃棄物の発生抑制、資源の再使用・再生利用などに取り組むとともに、廃棄物処理の広域化を推進し、ごみの減量や廃棄物のリサイクルを図り、限りある資源の循環的利用を推進します。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
市民・事業者 廃棄物	資源の再使用、再生利用に取り組む。 発生が抑制される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				単 位	目指す方向
指標① 家庭ごみ(資源を除く)の1人1日あたりの排出量				g	↘
当初値 (H25)	509	R1目標値	459	R6目標値	417
					
指標② 事業系一般廃棄物の年間排出量				t	↘
当初値 (H25)	44,427	R1目標値	36,754	R6目標値	30,359
					
指標③ 資源率				%	↗
当初値 (H25)	25	R1目標値	29	R6目標値	33
					

実績の評価	
成 果 点	成果の要因分析
・家庭ごみ(資源を除く。)の1人1日あたりの排出量が令和2年度は微増している。 ・借家タイプ地域及び外国人への対策に絞り、スマートフォン用アプリの活用について検討した。	・家庭ごみ(資源を除く。)の減量に向けての各種事業により、家庭ごみの分別排出及び資源化に関する市民の意識が高まり、分別行動に結びついている。 ・地区別排出量データ、日ごろの苦情情報、地域での懇談会等、市民、町内会、きれいなまち推進員の声を反映した。 ・岩手大学との共同事業の結果から、アプリの活用が効果的であると判断した。
問 題 点	問題の要因分析
・コミュニティ地区ごとに、ごみの排出状況(減量化・分別等の状況)が異なっている。 ・家庭ごみ(資源を除く)の1人1日あたりの排出量が増加に転じた。	・地域の特性によりコミュニティ活動の取組に差が生じており、このことがごみの排出状況にも影響しているものと考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症感染防止による ・在宅時間の増加 ・食品のテイクアウトの増加 ・家財整理
成 果 点	成果の要因分析
平成28年度から排出量の減少率が鈍化していたが、令和2年度は大幅に減少した。 ・令和2年度から事業系一般廃棄物における古紙の搬入規制を実施した。 ・事業系一般廃棄物の排出量は減少したが、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、事業者の営業縮小により事業系ごみが減少したこと、また、組成分析が実施できず、その取組の検証ができなかった。	・令和2年度から実施の事業系古紙類の搬入規制について、チラシや事業系ごみ分別辞典、研修会等で周知啓発を行った効果のほか、新型コロナウイルス感染症の影響で事業活動が縮小傾向となったことより、排出量が減少している。 ・事業者の営業縮小はあるものの、資源回収業者へのアンケートでは、事業者による古紙等の資源の搬入が増えているとのことであり、前年度に引き続き、搬入規制による一定の効果はあったものと思われる。
問 題 点	問題の要因分析
・事業系一般廃棄物の排出量は減少しているが、産業廃棄物の混入等、処理が適正に行えていない可能性がある。 ・地区別排出量データにおける商業地域で、家庭ごみ用ごみ集積場所への排出がみられる。 ・事業者への周知については、分別辞典を作成し配布しているが、周知が行き届いていない。	・事業者によっては廃棄物処理に係る知識等が十分ではなく、適正な排出・処理が行えていない可能性がある。 ・一定規模以上の事務所や大規模小売店舗に条例で提出を義務付けている「事業系一般廃棄物減量等計画書」や事業系ごみの排出実態の把握のほか、一般廃棄物の収集・運搬許可業者に対する適正処理に向けた指導及び研修会の開催等を継続的に実施しているが、事業者十分に周知しきれていないことから、廃棄物の適正処理及び事業系古紙類の搬入規制について、引続き事業者向けごみ分別辞典等を活用し訪問活動や説明会を行うなど、事業者へ十分な周知を行う必要がある。
成 果 点	成果の要因分析
・資源となる紙類の流通量は減っているが、資源率の大幅な減少には至っていない	・分別・資源化の啓発等の各種事業により、資源の排出が誘導されたと考えられる。
問 題 点	問題の要因分析
・平成28年度から資源率が横ばい傾向であったが、令和元年度からやや減少している。 ・資源率の算定基礎数値である家庭ごみの総排出量は増加したが、資源の量は大きく変化がなく、更に新型コロナウイルス感染症の影響で集団回収量が減少したため、資源率が減少した。 ・資源の量はもともと減少傾向にあったが、令和2年度は総排出量が増加したにもかかわらず、資源の量が△12%と、減少率が大きくなった。	・資源率は、(行政回収資源量＋資源集団回収量)／(家庭ごみ排出量＋資源集団回収量)で算定される。容器包装の軽量化や資源物の流通量の減少等が進む中で、行政が回収する資源量と資源集団回収量の合計値は減少していることや、小売業者等による店頭回収の推進など、排出方法の充実化等の影響も考えられる。 ・資源集団回収は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、報奨金の交付要件を緩和(3回以上⇒1回以上)したが、活動団体数は大きく減少した。新型コロナウイルス感染症の影響推移を見ながら、必要があれば集団回収の在り方について検討する必要がある。 ・資源率は、(行政回収資源量＋資源集団回収量)／(家庭ごみ排出量＋資源集団回収量)で算定される。資源の量の減少については、電子化による紙の減少、容器包装の軽量化、小売業者等による店頭回収及び民間事業者のステーション回収などの影響が考えられる。

今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
★ 地区別収集データに加え、当該地区の組成分析結果、可燃ごみ排出状況調査結果、資源集団回収量、小売店における店頭回収量のデータ等を活用し、地区毎の排出傾向等の分析する中で、地区ごとの特徴も見られたことから、その特徴を踏まえた効果的な周知啓発を行う。	
★地区別排出量データの分析から、借家タイプの地域や外国人をターゲットとして「資源・ごみ分別アプリ」を導入し、より分かりやすい周知を図る。併せて新型コロナウイルスの影響を注視する必要がある。	
★ 令和2年4月から開始した事業系古紙の搬入規制を令和3年度も引き続き実施する。また、一般廃棄物の収集・運搬許可業者に対する適正処理に向けた指導及び研修会を実施してきているほか、周知啓発・指導を継続することで、処理の適正化を推進する。	
★搬入規制に伴い、搬入物調査を強化拡充する予定であったが、破袋を伴う調査のため、新型コロナウイルス感染予防の観点から見合わせており、実施時期について、状況を踏まえ搬入物調査を強化拡充して行う。	
★令和2年度後半から、地区別排出量データに基づく商業地域において、直接事業者を回って周知する「ローラー作戦」を開始し、令和3年度も継続する。	
★ コミュニティ推進地区単位のごみ排出状況等の分析データを該当地区の懇談会・説明会で具体的に示し、地区の特徴に対応したきめ細やかな周知啓発を実施する。各地区における取組内容については、該当地区のきれいなまち推進員・町内会・自治会役員等と連携しながら検討を進め、地域の住民の実践行動につなげる。 なお、当該指標は盛岡市一般廃棄物処理基本計画の管理指標でもあるが、資源化の主体や環境に変化があることを踏まえ、どのように評価を行うかも含めて、継続して検討する必要がある。	
★当該指標は盛岡市一般廃棄物処理基本計画の管理指標でもあるが、行政回収及び資源集団回収の実績を対象としており、小売店による店頭回収、資源の24時間受入れ事業者の出店、フリーマーケットアプリなど、資源化の主体や環境に変化があることを踏まえ、指標として妥当性を引き続き検討する必要がある。	

【小施策評価（令和2年度実績評価）】

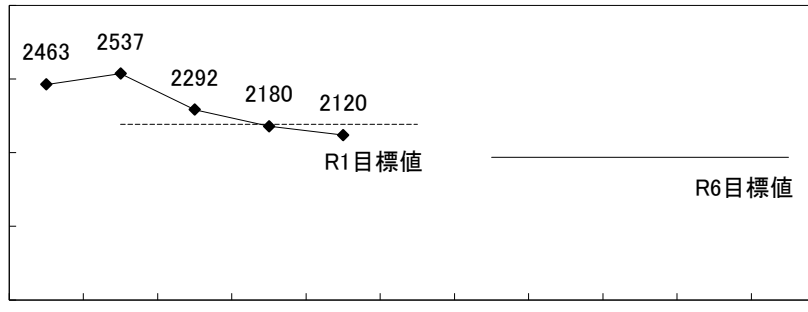
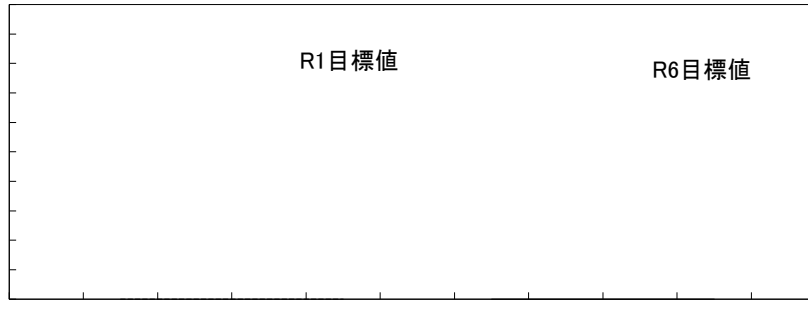
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	池田 陽一	内線 8410
小施策	20-4	地球温暖化対策の推進	評価 シート 作成者	鈴木 秀一	内線 8411

小施策の概要

現状と課題（総合計画実施計画から転記）	取組の方向性（総合計画実施計画から転記）
市域における温室効果ガス排出量は、東日本大震災後の平成24年度をピークに減少傾向にあるが、地球温暖化対策を進め、更なる削減が必要である。地球温暖化対策実行計画の目標年度である令和12年度における温室効果ガス排出量の31％削減（平成25年度比）に向け、地域経済の好循環にもつながる再生可能エネルギーの普及拡大やエネルギーの地産地消を促進するとともに、市民の省エネ行動の啓発などを効果的に進めていく必要がある。	温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなど、再生可能エネルギーの普及促進や、省エネ機器の導入などによるエネルギーの効率的な利用を促進する。
対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態）
市民・事業者	温室効果ガス排出量を抑制する。

小施策の成果指標の達成状況・評価（令和2年度実績）

実績値の推移						実績の評価							評価を踏まえた取組の方向性 ★…R3年度着手または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討	
指標① 温室効果ガスの総排出量						成 果 点			成果の要因分析					
						単 位 千t-co2			目指す方向 ↘					
当初値（H25）		2,463	R1目標値		2,193	R6目標値		1,969	・「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置費補助金」により、91件の太陽光発電システム等が設置された。			・太陽光発電システムだけではなく、蓄電池システムやホームエネルギーマネジメントシステムも補助対象としている。		
									・補助事業の財源である「地球温暖化対策実行計画推進基金」の残高が減少しており、事業の継続が難しくなっている。			・支出（事業費）に比べ、収入（積立額）が少ない。		
指標②						問 題 点			問題の要因分析					
						成 果 点			成果の要因分析					
当初値（H25）		R1目標値		R6目標値		成 果 点 <td colspan="3">成果の要因分析</td>			成果の要因分析					
						問 題 点			問題の要因分析					
						問 題 点			問題の要因分析					